

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

○判決

判決書

昭和十五年七月十日(水)  
海軍大臣官房

海軍公報(部内限)號外

1208

海軍公報 (部内限) 號外

○ 懲 罰

懲罰言渡書

二

1209

海軍公報 (部内限) 號外

三

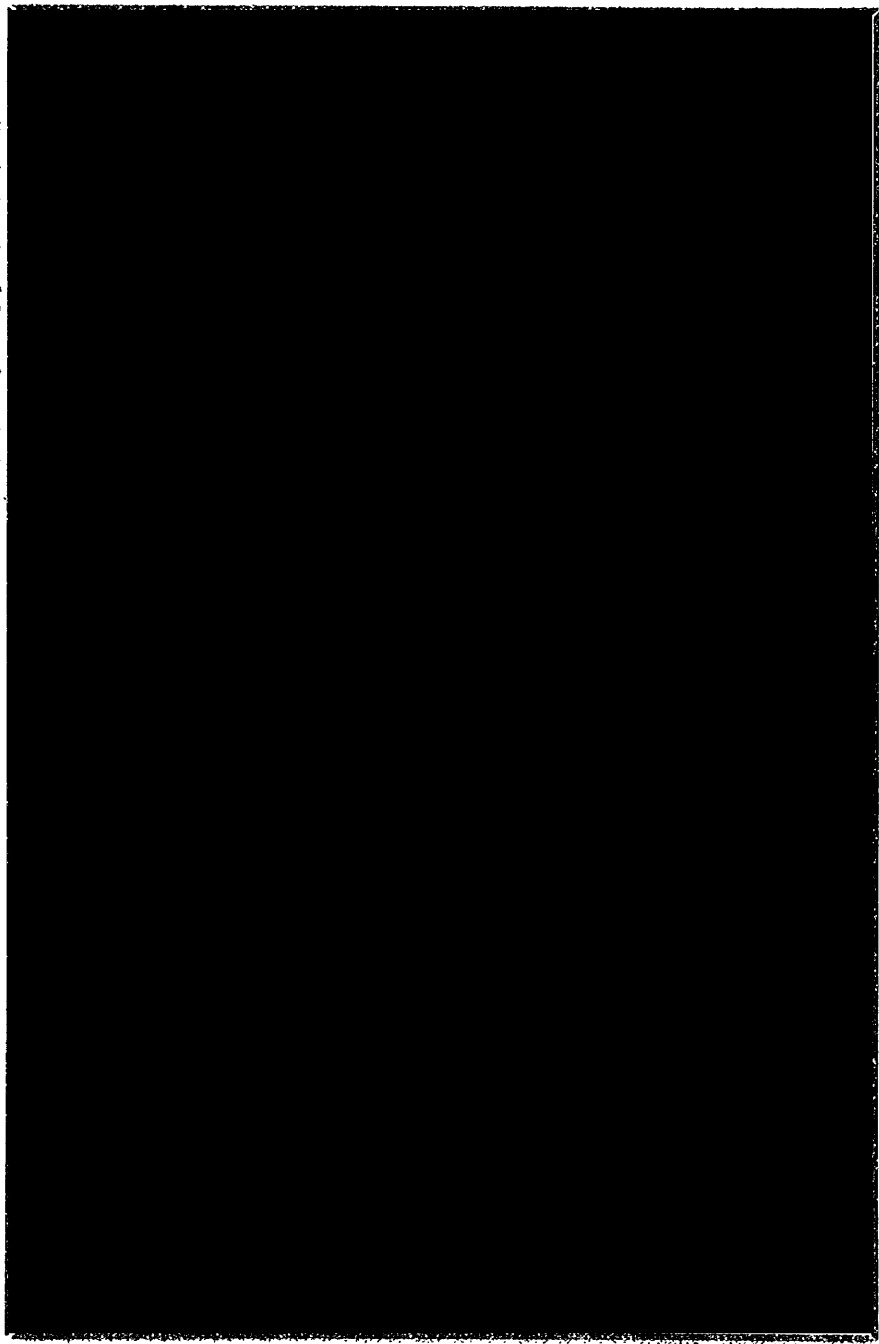
1210

海軍公報 (部内限) 號外

四

1211

海軍公報 (部内限) 號外



五

1212

海軍公報 (部内限) 號外

六

1213

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第三千五百五十號

海軍大臣官房

昭和十五年七月十一日(木)

○辭令

(各通)

海軍大佐 東郷二郎  
同 田村 劉吉

海軍主計中佐 出本 鹿之助

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス

同 奥 三二

海軍生徒採用試験常置委員ヲ免ス

海軍中佐 小西 行惠

同 續木 禎弼

同 安武 史郎

同 佐藤 佐

同 龜田 寛見

同 志賀 正成

同 上岡 小彪

同 光井 正義

同 植田 松太郎

同 加治木 喜久雄  
同 原田 耕作  
海軍少佐 中島 忠行

同 島村 活二

同 工藤 計

同 前田 岬

同 谷口 俊雄

同 瀬尾 昇

同 吉松 徹

同 月岡 寅重

同 武市 文男

同 猪口 力平

同 池澤 政幸

同 馬野 光

同 上井 宏

同 古谷 清渡

同 樋口 信夫

同 福見 幸一

海軍公報(部内限)第三千五百五十號 昭和十五年七月十一日

七六七





海軍公報(部内良) 第三千五百五十號 昭和十五年七月十一日

同	同	同	同	同	同	同	海軍軍醫中佐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
馬淵	大久保	山下	金澤	長置	下山	吉田	小田	堀江	福本	溝口	入谷	萱原	寺下	山下	山下	喜多見	大西	恒住	渡邊	西田				
涉	繁雄	清	龍三	盛保	政人	武尙	一昭	文彦	勇進	清明	清久	清久	清久	盾雄	國男	芳夫	好雄	一夫	定	恒晃				

(各通)

同	同	同	同	同	同	同	海軍軍醫少佐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
佐々木	石川	小川	永山	向後	南里	足羽	河合	野方	石田	藤井	高木	廣川	目下	清水	宮原	橋本	木村	稻田	福原	村田				
佳一	鐵三郎	義男	千代作	正雄	專一	正伸	榮	次郎	敬基	茂雄	謙	濟	純一	繁良	國雄	里吉	芳雄	勉	文雄	三郎				

七六九

同 同 同 同 海軍軍醫大尉 同

加 川 高 竹 織 濱 武 佐 早 正 黒 高 旭 中 石 平 田 大 中 山 神  
島 幡 木 越 内 田 安 藤 川 岡 田 橋 内 原 尾 中 村 口 代  
仕 千 要 良 平 千 季 重 兼 孝 秀 九 勝 一 義 逸 重 條 正 道 正 延 敬  
郎 秋 翁 助 八 秋 春 人 通 幸 隆 一 郎 夫 功 男 雄 進 道 正 敬

同 海軍主計少佐 同 海軍主計中佐 同

新 薄 新 宮 策 堀 小 元 宮 近 花 福 鎌 上 宮 甲 大 大 福 柳 田  
井 井 井 本 内 野 崎 藤 岡 田 田 原 原 田 野 田 川 邊  
克 正 實 政 弓 内 田 一 五 郎 明 弘 之 常 禮 梓 誠 男 郎 吉 郎 夫 伍  
己 藏 賞 男 助 捷 肇 郎 郎 明 弘 之 常 禮 梓 誠 男 郎 吉 郎 夫 伍



校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ命ス(以上請海軍省)

海軍主計中尉 近 藤 薫

驅逐艦夏潮艦裝員ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス(請支出官海軍省經理局長)

○ 雜 款

○將旗移揚  
海南島根據地隊司令官ハ七月八日將旗ヲ海日司令部ヨリ三亞司令部ニ移揚セリ

○司令驅逐艦復歸  
第六驅逐隊司令ハ七月八日司令驅逐艦ヲ曉ヨリ響ニ復歸セリ

○司令驅逐艦變更  
第二十一驅逐隊司令ハ七月八日司令驅逐艦ヲ初霜ヨリ若葉ニ變更セリ

○事務開始  
鎮海要港部經理部ハ七月一日要港部廳舎内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○艦船所在

指<sup>▲</sup>定<sup>▲</sup>シ<sup>▲</sup>要<sup>▲</sup>セ<sup>▲</sup>ズ

○七月十一日午前十時

【横須賀】

春日▲、嚴島、瑞穂▲、迅鯨

山雲▲、初風

伊五▲、伊七○

▽掃三

尻矢

(高崎)▲、(翔鶴)▲、(津輕)▲、(伊二三)

(伊一七)▲

【長浦】

▽沖島

汐風、帆風、夏雲、峯雲

伊六、▽呂五七、呂五八、▽伊一二四、

伊一二三

掃一、掃二、掃四、掃五、掃六

【鶴見】

(國後)▲

狹霧▲

(早潮)▲、(時津風)▲、(萩風)▲

【金田灣】

比叡、夕張

【館山】

矢風、澤風

【大湊】

攝津

白鷹

呂五九

大泊、宗谷

【函館】

▽朝風

【吳】

淺間、鬼怒▲、大鯨▲、龍驤、妙高▲、八雲、

初鷹、千代田、鳳翔、扶桑、橋立

吳竹、若竹、早苗▲

▽呂六三、呂六四、呂六八

雁 掃一六▲、掃一五▲、▽掃一三、掃一四

隱戸、室戸▲、襟裳

(日進)▲、(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊二七)▲

【大坂】

(夏潮)▲、(浦風)▲

【神戸】

木曾▲、大井

伊一▲、▽伊二▲、伊三▲

(瑞鶴)▲、(伊一〇)▲、(伊一九)▲、(伊二〇)▲、

(伊二一)▲、(伊二二)▲、(伊二五)▲

【相生】

鶴見▲

【玉】

伊四▲

【因ノ島】

文月▲、菊月▲

【安下庄】

▽香取、鹿島

【舞鶴】

吾妻▲、龍田▲、長良▲、名取、蒼鷹、天龍

▽秋風、夕風、羽風、太刀風、朝顔、芙蓉、

刈萱

▽隼▲、鴨▲、鴻▲、鵠▲、千鳥

古守

【佐世保】

(親潮)▲、(天津風)▲、(嵐)▲

青葉、衣笠▲、加賀、霧島、北上、足柄

初春、▽三日月、夕月、卯月、夕風、卓月、

海軍公報(部内限)第三千五百五十號

昭和十五年七月十一日

七七三

□水無月、長月

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、

呂六二、□伊六二、伊六一、伊六四、

掃一、掃一二、

敷島、佐多、野島、櫻野

(八丈)▲(磯風)▲(伊一八)▲(伊二四)▲

(伊二九)▲

【志布志】

長鯨

磯波、敷波

伊一六、□伊五九、伊六〇

【羅津】

追風、疾風

伊五二

【大連】

日向

□朝雲

【作業地】

□出雲、□安宅、熱海、鳥羽、勢多、堅田、

比良、保津、二見、伏見、隅田、□鳥海、嵯峨、

□磐手、□千歲、神威、□由良、□多摩、常磐、

能登呂、勝力、駒橋、□川内、□長門、陸奥、

山城、伊勢、□金剛、榛名、□加古、古鷹、

□阿武隈、□劍崎、□赤城、□高雄、愛宕、

摩耶、□羽黑、那智、□熊野、鈴谷、三隈、

最上、□利根、筑摩、□神通、□那珂、

□五十鈴、□飛龍、蒼龍、

栗、梅、蓮、松風、□朝風、若葉、初霜、

□子日、□春風、旗風、沖風、峯風、□神風、

波風、野風、沼風、彌生、□如月、望月、

陸月、□東雲、白雲、叢雲、薄雲、

□天霧、朝霧、夕霧、□村雨、春雨、夕立、

五月雨、□江風、涼風、海風、山風、□白露、

夕暮、有明、時雨、□綾波、浦波、□大潮、

朝潮、荒潮、滿潮、□黑潮、雪風、□初雪、

白雪、吹雪、□霞、霞、陽炎、不知火、

雷、電、□曉、響、□潮、略、隴、漣、

□呂三四、呂三三、□伊一二一、伊一二二、

伊五六、伊五八、□伊五七、□伊五三、

伊五四、伊五五、□伊六七、伊六六、

伊六五、伊七、伊六九、□伊六八、

伊七一、□伊七三、伊七二、伊八、

□伊七五、伊七四

鷺、鳩、雉、□友鶴、初雁、真鶴

掃七、掃一七、□掃一八、掃八

□朝日、明石、間宮、知床、鳴戸

【航海中】

早靨 (五日「オハ」發—德山へ)

石廊 (七日吳發—「タラカン」へ)

□球磨 (十日名古屋發—和歌浦へ)

□八重山、□呂六五、呂六六、呂六七、□掃一〇、

掃九 (十日佐世保發—作業地へ)

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

昭和十五年七月十一日(木)  
海軍大臣官房

○令 達

官房第三五八七號

昭和十五年國勢調査海軍特別區域調査手續左ノ通定ム

昭和十五年七月十日

海 軍 大 臣

昭和十五年國勢調査海軍特別區域調査手續

第一條 昭和十五年國勢調査施行令第二條第一項第一號及第二號ニ該當スルモノニシテ海軍特別區域内ニ在ル者ニ付行フ國勢調査ハ本手續ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本手續ニ於テ海軍特別區域トハ軍機保護ノ必要ニ依リ市町村ノ國勢調査員(以下國勢調査員ト稱ス)職務執行ノ爲ト雖モ其ノ出入ヲ禁止スベキ區域ヲ謂フ

第三條 海軍特別區域ノ國勢調査ハ昭和十五年十月一日午前零時ニ於テ海軍特別區域内ニ現在スル者ニ付其ノ區域内ニ於ケル調査箇所(世帯)ノ屬スル所轄

長昭和十五年國勢調査施行令及同施行規則ノ規定ニ基キ之ヲ行フ但シ昭和十五年十月一日午前零時ニ於テ海軍特別區域内ニ現在スル者ト雖モ海軍特別區域外ニ世帯ヲ有シ海軍特別區域内ニ通勤スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 所屬長官ハ所管内ニ於ケル海軍特別區域ヲ定メ當該區域内ニ於ケル調査箇所(世帯)ノ名稱ヲ七月三十一日迄ニ海軍大臣ニ報告スベシ

第五條 所屬長官ハ海軍特別區域内ニ於ケル調査箇所ノ屬スル所轄長ニ國勢調査委員長ヲ命ジ委員長ハ部下職員中ヨリ適宜委員ヲ設ケ又必要ニ應ジ之ニ委員附ヲ附スルコトヲ得

第六條 所屬長官ハ管下海軍特別區域内ニ於ケル調査ノ執行ヲ指揮監督シ調査ヲ確實ナラシムベシ

第七條 國勢調査委員長ノ所掌事項左ノ如シ  
準備調査、申告書用紙ノ配付、申告書ノ蒐集及検査、申告書ノ整理及國勢調査員ヘノ手交並ニ前各號

海軍公報(部内限)號外

ノ附帶事務

第八條 國勢調査委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ國勢調査ニ  
關スル事務ヲ行フ

第九條 國勢調査委員長ハ調査期日ニ先チ同委員ヲシ  
テ擔當調査區域内ノ各世帯ニ就キ準備調査ヲ爲サシ  
ムベシ

第十條 國勢調査委員長ハ天災其ノ他已ムヲ得ザル事  
故ノ爲十月七日迄ニ調査ヲ施行シ又ハ之ヲ完結スル  
コト能ハザルトキハ其ノ旨速ニ海軍大臣ニ電報スベ  
シ

第十一條 本手續ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋  
群島ニ於ケル海軍特別區域ノ國勢調査ニモ之ヲ準用  
ス

○通牒

官房第三五八八號

昭和十五年七月十日

海軍次官

各廳長殿

昭和十五年國勢調査ニ關スル件申進

本年十月一日午前零時ヲ期シ施行セラルベキ國勢調査

ノ實施ニ關シテハ左記ノ通ト了知相成度尙今同ノ國勢  
調査ハ事變中ニテモアリ調査複雜ニシテ前回ノ調査ト  
其ノ方法ヲ異ニスル點多キヲ以テ此ノ點ニ留意シ豫メ  
關係法令達等ヲ研究ノ上調査ノ萬全ヲ期スル様致度  
特ニ關係世帯(留守宅等)ニ現在スルモノトシテ該世  
帯ヨリ申告スベキ艦船乘員其ノ他從軍者等ニ對シテハ  
本人及關係世帯ト十分ナル連絡ヲ遂ゲシメ調査ノ脱漏  
ナキヲ期セラレ度

記

一、調査區分

(一) 海軍特別區域調査手續ニ依リ海軍國勢調査委員  
長ノ調査スベキモノ左ノ如シ

海軍特別區域内ニ在ル軍人及軍人以外ノ者全部但  
シ國勢調査施行令第五條ニ依ル世帯關係者トシテ  
留守宅等ヨリ申告スルモノヲ除ク

(註) 市町村ノ國勢調査員ガ出入シ得ル官舎、病  
院、刑務所等ハ特別區域ニアラズ

(二) 國勢調査施行令第五條ノ規定ニ依リ世帯關係者  
トシテ留守宅等ヨリ申告スベキモノ左ノ如シ

(イ) 軍人全部(艦船乗組中ノ者及外國ニ在ル者ヲ  
含ム)但シ海軍特別區域調査手續ニ依リ調査ス



ベキモノヲ除ク

(ロ) 從軍中ノ軍屬(宣誓セザル者ト雖モ海軍ノ勤務ニ服スル者全部)、從軍報道班員、從軍神官神職及從軍宗教家ニシテ帝國版圖外ニ現在スルモノ並ニ艦船乗組中ノ軍人以外ノモノ(艦船ノ所在ハ帝國版圖ノ内外ヲ問ハズ)

(註) 國勢調査施行令第二條第一項第二號乃至第四號該當者ノ申告義務者ハ「昭和十五年國勢調査ノ事務ニ從事スル者ニ示スベキ申告書記

入心得」(五月二十五日官報) 中申告義務者ノ項ヲ參照スルモノトス

二、國勢調査委員長部下職員中ヨリ委員委員附ヲ命ジタル時ハ其ノ官氏名ヲ海軍省人事局長ニ通報スルモノトス

三、國勢調査委員長ハ海軍特別區域内ノ調査範圍ニ付豫メ當該調査區ノ屬スル府縣臨時國勢調査部及當該調査區ヲ擔當スル國勢調査員ト十分ナル連絡ヲ遂ゲ調査ノ重複脱漏ナキヲ期スルト共ニ申告義務者ヨリ提出ノ申告書ヲ検査ノ上速ニ當該調査區ヲ擔當スル國勢調査員ニ之ヲ手交スルモノトス

四、申告書用紙ノ請求及配付

海軍國勢調査委員長ハ所要枚數ニ豫備百分ノ十ヲ加ヘタルモノヲ當該調査區ヲ擔當スル國勢調査員ニ請求シ之ヲ申告義務者ニ配付スルモノトス

五、申告書記入上ノ心得

(一) 銚後一般ノ者ノ記入例ニ依リ記入スベキ者ノ「事業所ノ事業種目」及「自己ノ勤務する部門ノ事業種目」ハ工作應事業應等ニ勤務スル者ニ在リテハ機密保護ノ關係モアリ左記ニ依リ記入セシムルモノトス

(イ) 「事業所ノ事業種目」

工作應又ハ事業應等ニ於ケル事業種目ハ別表第一ニ依リ其ノ主タル事業種目一種ノミヲ記入スルモノトス例ヘバ

横須賀海軍工廠勤務者ニ在リテハ「船舶製造」  
廣海軍工廠勤務者ニ在リテハ「航空機製造」  
海軍火藥廠勤務者ニ在リテハ「發火物製造」

(ロ) 「自己ノ勤務する部門ノ事業種目」

夫々別表第二ニ依リ記入ス  
所轄長ハ前號ノ記註ニ關シテハ機密保護ノ爲別表以外ノ種目ヲ記入セシメザル様特ニ留意指導スルト共ニ本人以外ノ者(留守宅等)ヨリ申告スル

場合ニ在リテハ本人ト申告者トノ連絡ニ付遺憾ナ  
キヲ期スルモノトス  
(別表添)

別表第一

<p>一 金屬精鍊及材料品製造          二 鑄物          三 メッキ          四 其ノ他ノ金屬工業</p>	<p>五 原動機類製造          六 電氣機械器具類製造          七 電線及電纜製造          八 電池製造          九 工作機械器具製造          一〇 採鑛、選鑛及精鍊機械器具製造          一一 化學工業用機械器具類製造          一二 紡織機械器具類製造          一三 其ノ他ノ製造加工用機械器具類製造          一四 鐵道車輛製造          一五 自動車製造          一六 自轉車及其ノ他ノ車輛製造          一七 船舶製造          一八 航空機及航空機部分品製造          一九 運搬機械製造          二〇 ポンプ、水壓機、送風機及氣體壓縮機製造</p>	<p>二一 農業及土木建築用機械器具製造          二二 計測器類製造          二三 學術及醫療機械器具製造          二四 光學機械器具製造          二五 照用機械器具製造          二六 樂器類及蓄音機製造          二七 銃砲、彈丸、兵器類製造          二八 其ノ他ノ機械器具工業          二九 機械器具裝置          三〇 製藥          三一 工業藥品製造          三二 製鹽          三三 染料及中間物製造          三四 塗料及顏料製造          三五 發火物製造          三六 礦物油製造          三七 植物油類製造          三八 動物油脂製造          三九 蠟及加工油製造          四〇 ゴム製品類製造</p>
--	---	---

(昭和十五年七月十一日海軍公報(部内限))

<p>四一 パルプ製造</p> <p>四二 製紙</p> <p>四三 セロファン紙製造</p> <p>四四 セルロイド製造</p> <p>四五 化学纖維製造</p> <p>四六 肥料製造</p> <p>四七 皮革製造</p> <p>四八 石鹼及化粧品製造</p> <p>四九 其ノ他ノ化学工業</p>	<p>五〇 ガス業</p> <p>五一 電氣業</p> <p>五二 水道業</p> <p>五三 陶磁器製造及繪付</p> <p>五四 ガラス及ガラス製品製造</p> <p>五五 セメント製造</p> <p>五六 其ノ他ノ窯業</p> <p>五七 セメント及石綿製品製造</p> <p>五八 石工品製造</p> <p>五九 其ノ他ノ土石工業</p>	<p>六一 紡績</p> <p>六二 襪絲</p> <p>六三 織物</p> <p>六四 編物組物</p> <p>六五 綿製造</p> <p>六六 染色及整理</p> <p>六七 其ノ他ノ紡織工業</p>	<p>六八 製材及合板</p> <p>六九 木製品工業</p> <p>七〇 精穀</p> <p>七一 製粉及澱粉製造</p> <p>七二 製糖</p> <p>七三 釀造</p> <p>七四 清涼飲料製造</p> <p>七五 菓子、パン、飴類製造</p> <p>七六 罐詰及罐詰製造</p> <p>七七 畜産食料品製造</p> <p>七八 水産食料品製造</p> <p>七九 製茶</p> <p>八〇 煙草製造</p>	<p>六〇 製絲</p>
--	---	--	--	--------------

八一	製氷及冷凍食品製造
八二	其ノ他ノ食品工業
八三	印刷
八四	製本
八五	土木建築
八六	紙製品製造
八七	竹、杞柳、藤類製品製造
八八	疊及藁、棕櫚、真田類製品製造
八九	綿、麻、毛及絹製網、繩及網製造
九〇	纖維板製造
九一	皮革製品製造
九二	鈕釦(金屬製ノモノヲ除ク)製造
九三	刷毛及刷子製造
九四	漆器製造
九五	製帽
九六	玩具(金屬製ノモノヲ除ク)製造
九七	映畫製作
九八	寫真業
九九	塗裝業
一〇〇	其ノ他雜工業

1228

別表第二

一	鐵精鍊及材料品製造	二二	錫メッキ
二	銅精鍊及材料品製造	二二	ニッケルメッキ
三	亜鉛精鍊及材料品製造	二三	其ノ他ノメッキ
四	鉛精鍊及材料品製造	二四	鍍銀製造
五	アルミニウム精鍊及材料品製造	二五	パネ製造
六	マグネシウム精鍊及材料品製造	二六	鋼索製造
七	錫精鍊及材料品製造	二七	金網製造
八	金屬タングステン精鍊及材料品製造	二八	ボルト、ナット、座金及鋌製造
九	アンチモン精鍊及材料品製造	二九	釘類製造
一〇	其ノ他ノ金屬精鍊及材料品製造	三〇	針類製造
一一	黃銅材料品製造	三一	金屬板製品製造
一二	其ノ他ノ銅合金材料品製造	三二	建築用及家具用金屬製造
一三	其ノ他ノ合金材料品製造	三三	金屬製建具、家具類製造
一四	銑鐵鑄物	三四	建築、橋梁、鐵塔等ノ建設材料製造
一五	可鍛鑄鐵鑄物	三五	金屬器類製造
一六	鋼鑄物	三六	金屬製ペン先製造
一七	青銅(燐青銅ヲ含ム)鑄物	三七	剃刀、食卓用ナイフ、フォーク及スプーン製造
一八	アルミニウム鑄物	三八	洋傘骨製造
一九	其ノ他ノ鑄物	三九	金屬製玩具製造
二〇	亜鉛メッキ		

五

四〇 金屬製小間物類製造	五九 製材及木工機械製造
四一 蹄鐵及蹄釘製造	六〇 工具製造
四二 火造(鍛冶)	六一 採鑛、選鑛及精鍊機械器具製造
四三 金屬切斷	六二 化學工業用機械器具製造
四四 熔接	六三 製業用機械器具製造
四五 其ノ他ノ金屬品製造加工	六四 製紙機械器具製造
四六 蒸氣罐製造	六五 紡織機械器具製造
四七 蒸氣機關及蒸氣タービン製造	六六 蠶絲機械器具製造
四八 内燃機關製造	六七 ガス發生裝置製造
四九 水車製造	六八 食料品製造加工用機械器具製造
五〇 其ノ他ノ原動機製造	六九 印刷機械器具製造
五一 原動機部分品及附屬品製造	七〇 製本機械器具製造
五二 電氣機械器具製造	七一 ミシン製造
五三 無線及有線通信機械器具製造	七二 其ノ他ノ製造加工用機械器具製造
五四 電線及電纜製造	七三 鐵道車輛製造
五五 電池製造	七四 大型自動車製造
五六 切削研磨用金屬工作機械製造	七五 小型自動車製造
五七 其ノ他ノ金屬工作機械製造	七六 自動二輪車及自動三輪車製造
五八 金屬工作機械部分品及附屬品製造	

六

1230

七七	自動車部分品及附屬品製造	九五	其ノ他ノ計器製造
七八	自轉車製造	九六	電氣時計製造
七九	其ノ他ノ車輛製造	九七	其ノ他ノ時計製造
八〇	鋼船製造	九八	測量機械器具製造
八一	其ノ他ノ船舶製造	九九	試験及検査機械器具製造
八二	航空機製造	一〇〇	學術用機械器具製造
八三	航空機部分品及附屬品製造	一〇一	醫療用機械器具製造
八四	運搬機械製造	一〇二	寫真機類製造
八五	ポンプ及水壓機製造	一〇三	其ノ他ノ光學機械器具製造
八六	送風機及氣體壓縮機製造	一〇四	電球製造
八七	農業用機械器具製造	一〇五	其ノ他ノ照明用機械器具製造
八八	土木建築用機械器具製造	一〇六	樂器類製造
八九	度量衡器製造	一〇七	蓄音機製造
九〇	ガスメートル及水量メートル製造	一〇八	銃砲、彈丸、兵器類製造
九一	寒暖計製造	一〇九	事務用機械製造
九二	體溫計製造	一一〇	金庫製造
九三	電氣計器製造	一一一	ガス器具製造
九四	計壓器類製造	一一二	辨及コック製造
		一一三	軸受製造



一一四	齒車製造	一三二	塗料製造
一一五	ベルト車、車輪及車軸製造	一三三	顔料製造
一一六	前掲以外ノ部分品及附屬品製造	一三四	マツチ製造
一一七	其ノ他ノ機械器具製造	一三五	其ノ他ノ發火物製造
一一八	電氣機械器具裝置	一三六	コールタール及コールタール分溜物製造
一一九	其ノ他ノ機械器具裝置	一三七	石油精製
一二〇	製藥	一三八	人造石油製造
一二一	ソーダ製造	一三九	植物油脂製造
一二二	硫酸製造	一四〇	樟腦製造
一二三	燐製造	一四一	薄荷製造
一二四	壓縮ガス製造	一四二	其ノ他ノ植物性揮發油製造
一二五	カーバイド製造	一四三	魚油製造
一二六	其ノ他ノ工業藥品製造	一四四	獸脂類製造
一二七	製鹽	一四五	木蠟製造
一二八	天然染料製造	一四六	蠟燭製造
一二九	硫化染料製造	一四七	加工油製造
一三〇	其ノ他ノ合成染料及中間物製造	一四八	ゴム製品製造
一三一	漆液製造	一四九	再製ゴム素地製造

一五〇	パルプ製造	一六八	リノリウム製造
一五一	製紙	一六九	防水布、擬革布類製造
一五二	セロファン紙製造	一七〇	建築用防水紙及防水布製造
一五三	セルロイド素地製造	一七一	フィルム、乾板類製造
一五四	セルロイド製品製造	一七二	人造香料製造
一五五	再製セルロイド素地製造	一七三	タンニン製造
一五六	人造絹絲製造	一七四	糊料製造
一五七	ステープルファイバー製造	一七五	殺虫劑及防腐劑製造
一五八	其ノ他ノ化學纖維製造	一七六	研磨材料及研磨用品製造
一五九	植物質肥料製造	一七七	炭素製品製造
一六〇	動物質肥料製造	一七八	コークス製造
一六一	礦物質及配合肥料製造	一七九	其ノ他ノ化學製品製造
一六二	製革	一八〇	ガス業
一六三	精製毛皮製造	一八一	電氣業
一六四	石鹼及化粧品製造	一八二	水道業
一六五	人造レジン素地及製品製造	一八三	陶磁器製造
一六六	蓄音機レコード製造	一八四	陶磁器繪付
一六七	パルカナイズドファイバー製造	一八五	ガラス及ガラス製品製造

1233

九

一八六	セメント製造	二〇五	其ノ他ノ紡績
一八七	煉瓦及耐火物製造	二〇六	綿撚絲
一八八	屋根瓦製造	二〇七	絹撚絲
一八九	石灰製造	二〇八	其ノ他ノ撚絲及加工撚絲
一九〇	珐瑯鐵器製造	二〇九	純綿織物製造
一九一	其ノ他ノ窯業製品製造	二一〇	混紡綿織物及交織綿織物製造
一九二	セメント製品製造	二一一	純絹織物製造
一九三	石綿製品製造	二一二	人造絹絲トノ交織絹織物製造
一九四	石工品製造	二一三	綿絲トノ交織絹織物製造
一九五	其ノ他ノ土石工業	二一四	其ノ他ノ絹織物製造
一九六	生絲製造	二一五	麻織物製造
一九七	玉絲製造	二一六	純毛織物製造
一九八	野蠶絲製造	二一七	混紡毛織物及交織毛織物製造
一九九	生皮苧、鬘斗絲類製造	二一八	純人造絹織物製造
二〇〇	綿絲紡績	二一九	交織人造絹織物製造
二〇一	絹絲紡績	二二〇	ステーブルファイバー織物製造
二〇二	麻絲紡績	二二一	其ノ他ノ織物製造
二〇三	毛絲紡績	二二二	メリヤス素地編立
二〇四	ステーブルファイバー絲紡績	二二三	メリヤス製品製造
		二二四	其ノ他ノ編物、ドロップウオーク、レース類製造

二二五	絲組物製造	二四四	包裝用木箱、椽及桶製造
二二六	製綿	二四五	木管製造
二二七	眞綿製造	二四六	コルク製品製造
二二八	機械捺染	二四七	挽物、曲物類製造
二二九	其ノ他ノ捺染	二四八	其ノ他ノ木製品製造
二三〇	無地染及絞染	二四九	精穀
二三一	絲染色、精練及漂白	二五〇	製粉
二三二	精練、漂白及整理	二五一	澱粉製造
二三三	起毛	二五二	製糖
二三四	洗張洗濯	二五三	和酒製造
二三五	フェルト製造	二五四	麥酒製造
二三六	裁縫	二五五	其ノ他ノ酒類製造
二三七	刺繡	二五六	醬油、味噌及食酢製造
二三八	反毛	二五七	清涼飲料製造
二三九	其ノ他ノ紡織品製造加工	二五八	菓子、パン、餡類製造
二四〇	製材	二五九	罐詰製造
二四一	防腐、耐火等ノ木材處理	二六〇	鐵詰製造
二四二	ベニア合板製造		
二四三	木製建具及家具製造		

二六一	畜産食料品製造	二七七	澱製造
二六二	水産食料品製造	二七八	蕨、花蕨及野草蕨製造
二六三	製茶	二七九	蕨製品及棕桐製品製造
二六四	煙草製造	二八〇	麻真田製造
二六五	製氷	二八一	麥稈及經木製品製造
二六六	冷凍食料品製造	二八二	綿、麻、毛及絹製網、繩及網製造
二六七	製麵	二八三	纖維板製造
二六八	其ノ他ノ食料品製造	二八四	革靴製造
二六九	印刷	二八五	其ノ他ノ皮革製品製造
二七〇	製本	二八六	鈕釦(金屬製ノモノヲ除ク)製造
二七一	土木建築	二八七	刷毛及刷子製造
二七二	紙製品製造	二八八	漆器製造
二七三	竹製品製造	二八九	フェルト製帽子製造
二七四	柶柳製品製造	二九〇	其ノ他ノ帽子製造
二七五	籐製品製造	二九一	玩具(金屬製ノモノヲ除ク)製造
二七六	其ノ他ノ蔓及莖製品製造	二九二	映畫製作
		二九三	寫眞業

二九四	塗裝業	三〇二	草履(革製及ゴム製ノモノヲ除ク) 爪革類製
二九五	骨、角、蹄、甲、牙及具類製品製造	三〇三	羽毛及獸毛漂白整理
二九六	醫療材料品製造	三〇四	人造眞珠製造
二九七	毛筆製造	三〇五	寶石類加工
二九八	萬年筆製造	三〇六	魔法鑄製造
二九九	鉛筆及クレヨン製造	三〇七	其ノ他ノ製造加工
三〇〇	和傘製造		
三〇一	洋傘製造		

1237

三

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千五百五十一號

海軍大臣官房

昭和十五年七月十二日(金)

○ 雜 款

○郵便物閉裏交換開始

特務艦尻矢北米方面行動中同艦ト横濱郵便局間ニ軍艦郵便ノ取扱ヲ行ハル

(海 軍 省 副 官)

○司令驅逐艦一時變更

第二十一驅逐隊司令ハ七月十日司令驅逐艦ヲ一時若葉ヨリ初霜ニ變更セリ

○郵便物發送先

軍艦瑞穂宛

七月三十一日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀  
八月十三日迄ニ 同 第一艦隊司令部ニ同シ  
其ノ後ハ 横 須 賀

特務艦鳴戸宛

七月十八日迄ニ到達見込ノモノハ 館 山  
同 二十二日迄ニ 同 横 須 賀  
同 二十六日迄ニ 同 石 卷  
同 二十八日迄ニ 同 大 湊

同 三十日迄ニ 同 船 川  
八月 四日迄ニ 同 東 舞 鶴

特務艦鶴見宛

七月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 相 生  
其ノ後ハ 佐 世 保

特務艦樫野宛

當分ノ間 吳

○事務所撤去

樫野艦裝具事務所ハ七月十日撤去セリ

海軍公報 (部内限) 第三千五百五十一號

昭和十五年七月十二日

七七五

○艦船所在 △印ハ「ハホ」ノ  
指定ヲ要セズ

○七月十二日午前十時

【横須賀】春日▲、嚴島、瑞穂▲、迅鯨、比叡、△沖島

山雲▲、初風

伊五▲

△掃三

問宮

(高崎)▲(翔鶴)▲(津輕)▲(伊二三)

(伊一七)▲

【長浦】汐風、帆風、夏雲、峯雲

伊六、△呂五七、呂五八

掃一、掃二、掃四、掃五、掃六

【鶴見】(國後)▲

【浦賀】狹霧▲

(早潮)▲(時津風)▲(秋風)▲

【金田灣】夕張

【館山】矢風、澤風

攝津

【大湊】白鷺

呂五九

大泊、宗谷

【函館】△朝風

【吳】淺間、鬼怒▲、大鯨、龍驤、妙高▲、八雲、  
△初鷹、千代田、鳳翔、扶桑、橋立

吳竹、若竹、早苗▲  
△呂六三、呂六四、呂六八

雁 掃一六▲、掃一五▲、△掃二三、掃一四

隱戸、室戸▲襟裳

(日進)▲(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊二七)▲

球磨

【和歌浦】(夏潮)▲(浦風)▲

【大阪】木曾▲、大井

【神戸】伊一▲、△伊二▲、伊三▲

(瑞鶴)▲(伊一〇)▲(伊一九)▲(伊二〇)▲

(伊二一)▲(伊二二)▲(伊二五)▲

【相生】鶴見

【玉】伊四▲

【因ノ島】文月▲、菊月▲

【安下庄】△香取、鹿島

【舞鶴】吾妻▲、龍田▲、長良▲、名取、蒼鷹、天龍

△秋風、夕風、羽風、太刀風、朝顔、芙蓉、

刈萱

△隼▲、鴨▲、鴻▲、鵠▲、千鳥

占守 (親潮)▲(天津風)▲(嵐)▲

【佐世保】青葉、衣笠▲、加賀、霧島、北上

△初春、△三日月、夕月、卯月、夕風、卓月、

△水無月、長月

海軍公報(部内限) 第三千五百五十一號 昭和十五年七月十二日

七七七



呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、  
呂六二、伊伊六二、伊六一、伊六四、  
掃一一、掃一二、  
敷島▲、佐多、野島

(八丈)▲、(磯風)▲、(伊一八)▲、(伊二四)▲、  
(伊二九)▲

【薩川灣】▷足柄、八重山

【羅津】▷追風、疾風

伊五二

【大連】▷日向

▷朝雲

【作業地】▷出雲、▷安宅、熱海、鳥羽、勢多、堅田、  
比良、保津、二見、伏見、隅田、▷鳥海、嵯峨、  
能登呂、勝力、駒橋、▷川内、▷長門、陸奥、  
山城、伊勢、▷金剛、榛名、▷加古、古鷹、  
▷阿武隈、▷劍崎、▷赤城、▷高雄、愛宕、  
摩耶、▷羽黒、那智、▷熊野、鈴谷、三隈、  
最上、▷利根、筑摩、▷神通、▷那珂、

▷五十鈴、▷飛龍、蒼龍

栗、梅、蓮、松風、▷朝風、若葉、初霜、

▷子日、▷春風、旗風、沖風、峯風、▷神風、

波風、野風、沼風、彌生、▷如月、望月、

睦月、▷東雲、白雲、叢雲、薄雲、

▷天霧、朝霧、夕霧、▷村雨、春雨、夕立、

五月雨、▷江風、涼風、海風、山風、▷白露、  
夕暮、有明、時雨、▷綾波、浦波、▷大潮、  
朝潮、荒潮、滿潮、▷黑潮、雪風、▷初雪、  
白雪、吹雪、▷霰、霞、陽炎、不知火、  
雷、電、▷曉、響、▷潮、曙、朧、漣

▷呂三四、呂三三、▷伊一二一、伊一二二、  
伊五六、伊五八、▷伊五七、▷伊五三、  
伊五四、伊五五、▷伊六七、伊六六、  
伊六五、伊七、伊六九、▷伊六八、  
伊七〇、伊七一、▷伊七三、伊七二、  
伊七八、▷伊七五、伊七四

▷朝日、明石、知床、鳴戸

▷鷺、鳩、雉、▷友鶴、初雁、真鶴

▷掃七、掃一七、▷掃一八、掃八

▷早鞆 (五日「オハ」發—徳山へ)

石廊 (七日吳發—「タラカン」へ)

▷呂六五、呂六六、呂六七、▷掃一〇、掃九 (十日  
佐世保發—作業地へ)

長鯨、磯波、敷波、▷伊五九、伊六〇、伊六一  
(十一日志布志發—長濱へ)

▷伊一二四、伊一二三 (十一日長浦發—作業地へ)

櫻野 (十一日佐世保發—吳へ)

尻矢 (十一日横須賀—發吳へ)

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限)第三千五百五十二號

海軍大臣官房

昭和十五年七月十三日(土)

## ○通牒

官房第三六五七號

昭和十五年七月十三日

海軍省 副官

關係各廳長殿

報國號飛行機要目發表範圍及寫真撮影

ニ關スル件通牒

來七月十五日東京市蒲田區羽田東京飛行場ニ於テ命名式舉行豫定ノ報國號飛行機ノ要目發表範圍及寫真撮影ニ關シテハ左記ニ依ルコトト了知相成度

記

一、報國號飛行機要目發表範圍

報國號	番號	名	稱	機	種	要	目
第三四號	第三	越	號				
第三五號	第三	越	號				

第三六號 松屋號

第三七號 第二北日本汽船號

第三八號 宇都宮製作所號

第三九號 芳澤化機號

第四〇號 伊勢丹號

艦上戰鬥機

座席 一

全幅 一、二〇米

全長 七、五米

全高 三、〇米

二、寫真撮影(特ニ許可ヲ得タルモノノ外)禁止

航本機密第六三四六號

昭和十五年七月十二日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

三菱名古屋、日立航空機、愛知、日本飛行機、渡邊、中島、川西、昭和飛行機各社長

航空機用蓄電池爆發事故防止ニ關スル件

照會

最近飛行作業中蓄電池ノ爆發事故數件アリ調査ノ結果

海軍公報(部内限)第三千五百五十二號

昭和十五年七月十三日

七七九

之ガ推定原因ハ充電用發電機電壓ノ異狀高昇ノ爲蓄電池過充電状態トナリ多量ノ水素瓦斯ヲ發生シツツアリタル所偶々搭乗者ガ輕合金製格納蓋ニ乗リタル爲該蓋ガ電池端子ニ接觸シ火花ヲ發生シ引火爆發シタルモノト認メラルルニ付蓄電池裝備並ニ取扱上左記事項ヲ特ニ注意相成度

記

- 一、實施部隊ニ於テハ充電用發電機附屬制御筐内各調整箇所ニ手ヲ觸レザルヲ要ス
- 二、工作應ニ於テ充電用發電機ノ調整ヲ行フ場合ニハ必ズ規定回轉ノ全範圍ニ亘リ正規出力電壓ヲ得ル如クスルヲ要ス尙本調製ニ使用スル電壓計ハ精密級ノモノタルヲ要ス
- 三、工作應(會社)ハ蓄電池格納筐新製ノ際筐蓋裏面ニ蓄電池端子ト接觸セザル様適當ナル絶緣物ヲ張り且適當ナル排氣孔ヲ設クルヲ要ス
- 實施部隊ハ現供用中ノ該格納筐ニ付時期ヲ得次第前記改造箇所ニ對スル修理ヲ工作應ニ請求シ改造ノ上安全ヲ期スルモノトス
- 四、蓄電池端子ノ母螺池緩シアル時ハ接續線トノ間ニ火花ヲ生ズル虞アルヲ以テ裝備ニ際シ確實ニ締付ク

ルヲ要ス

○ 辭令

大湊要港部部員海軍主計少佐 小笠 熊男  
 鎮海要港部部員同 阿賀谷 文二郎  
 (通) 旅順要港部部員同 長野 正壽  
 馬公要港部部員海軍主計大尉 江口 末一  
 艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス  
 馬公要港部部員海軍主計大尉 江口 末一  
 支那方面艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以上請支出  
 官海軍省經理局長)

○ 表彰

金四百圓 海軍機關大佐 横田 俊雄  
 同 元海軍技師 小川 亨  
 賞品、金貳百五拾圓 元海軍技師 住本 誠治  
 賞品 海軍燃料廠囑託 小松 茂  
 賞品、金貳百五拾圓 海軍機關少佐 鈴木 俊郎  
 賞品、金百五拾圓 海軍造機大尉 高橋 功夫

賞品、金百貳拾圓 元海軍技手 田島 悅郎  
 賞品、金貳百五拾圓 海軍機關中佐 有本 寛  
 賞品、金百五拾圓 海軍造機大尉 三井 啓策  
 金七拾圓 元技生 中村 正  
 右者石炭液化法ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ  
 完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ(各頭  
 書ノ通)ヲ賞與ス

(各通)

南滿洲鐵道株式會社  
 朝鮮石炭工業株式會社  
 石炭液化事業ニ關シ克ク帝國海軍ニ協力シ其ノ功績  
 極メテ顯著ナリ仍テ花瓶一個ヲ贈與シ茲ニ之ヲ表彰  
 ス

海軍機關中佐 長嶺 公固  
 右者電氣兵裝法ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所  
 洵ニ大ナリ仍テ金參百五拾圓ヲ賞與ス

(各通)

海軍技師 吉田 忠一  
 海軍技手 冥加 初太郎  
 右者電氣兵裝法ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ  
 完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ金貳百  
 圓ヲ賞與ス(以上昭和十五年四月二十七日海軍大臣)

○雜款

○將旗一時移揚  
 第五潜水戰隊司令官ハ七月五日將旗ヲ一時呂號第三十  
 四潜水艦ニ移揚シ七月六日由良ニ復歸セリ  
 ○司令驅逐艦變更  
 第二十一驅逐隊司令ハ七月十日司令驅逐艦ヲ初霜ヨリ  
 子日ニ變更セリ

○艦船所在

▲印ハ「ハホ」ノ  
指定ヲ要セズ

○七月十三日午前十時

【横須賀】

春日▲、嚴島、瑞穂▲、迅鯨、比叡、▽沖島、夕張

山雲▲、初風

伊五▲

問宮

(高崎)▲、(翔鶴)▲、(津輕)▲、(伊二三)

(伊一七)▲

【長浦】

汐風、帆風、夏雲、峯雲

伊六、▽呂五七、呂五八

▽掃三、掃一、掃二、掃四、掃五、掃六

【鶴見】

(國後)▲

狹霧▲

(早潮)▲、(時津風)▲、(萩風)▲

【館山】

矢風、澤風

攝津

【大湊】

白鷹

呂五九

大泊、宗谷

【函館】

▽朝風

【吳】 淺間、鬼怒▲、大鯨▲、龍驤、妙高▲、八雲、

▽初鷹、千代田、鳳翔、扶桑、橋立、

▽香取、鹿島

吳竹、若竹、早苗▲  
▽呂六三、呂六四、呂六八

雁

掃一六▲、掃一五▲、▽掃一三、掃一四

隱戸、室戸▲、襟裳、樫野

(日進)▲、(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊二七)▲

球磨

(夏潮)▲、(浦風)▲

木曾▲、大井

伊一▲、▽伊二▲、伊三▲

(瑞鶴)▲、(伊一〇)▲、(伊一九)▲、(伊二〇)▲、

(伊二一)▲、(伊二二)▲、(伊二五)▲

鶴見▲

伊四▲

文月▲、菊月▲

早鞆

吾妻▲、龍田▲、長良▲、名取、蒼鷹

▽秋風、夕風、羽風、太刀風、朝顔、芙蓉、

刈萱

▽隼▲、鴨▲、鴻▲、鵠▲、千鳥

占守

(親潮)▲、(天津風)▲、(嵐)▲

青葉、衣笠▲、加賀、霧島、北上

▽初春、▽三日月、夕月、卯月、夕風、皐月、

▽水無月、長月

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、  
呂六二、伊伊六二、伊六一、伊六四、  
掃一、掃一二、  
敷島▲、佐多、野島

(八丈)▲、(磯風)▲、(伊一八)▲、(伊二四)▲、  
(伊二九)▲

【鹿兒島】呂六五、呂六六、呂六七

掃一〇、掃九

【奄美大島】足柄、八重山

【羅津】追風、疾風

伊五二

【大連】日向

掃朝雲

【作業地】出雲、安宅、熱海、鳥羽、勢多、堅田、  
比良、保津、二見、伏見、岡田、鳥海、嵯峨、  
磐手、千歲、神威、由良、多摩、常磐、  
能登呂、勝力、駒橋、川内、長門、陸奥、  
山城、伊勢、金剛、榛名、加古、古鷹、  
阿武隈、劍埼、赤城、高雄、愛宕、  
摩耶、羽黑、那智、熊野、鈴谷、三隈、  
最上、利根、筑摩、神通、那珂、

五十鈴、飛龍、蒼龍、  
栗、梅、蓮、松風、朝風、若葉、初霜、  
子日、春風、旗風、沖風、峯風、神風、  
波風、野風、沼風、彌生、如月、望月、

陸月、東雲、白雲、叢雲、薄雲、  
天霧、朝霧、夕霧、村雨、春雨、夕立、  
五月雨、江風、涼風、海風、山風、白露、  
夕暮、有明、時雨、綾波、浦波、大潮、  
朝潮、荒潮、滿潮、黑潮、雪風、初雪、  
白雪、吹雪、霰、霞、陽炎、不知火、  
雷、電、曉、響、潮、曙、臘、漣

呂三四、呂三三、伊一二一、伊一二二、  
伊五六、伊五八、伊五七、伊五三、  
伊五四、伊五五、伊六七、伊六六、  
伊六五、伊七、伊六九、伊六八、  
伊七〇、伊七一、伊七三、伊七二、  
伊八、伊七五、伊七四

鷺、鳩、雉、友鶴、初雁、真鶴  
掃七、掃一七、掃一八、掃八  
朝日、明石、知床、鳴戸

【航海中】

石廊 (七日吳發「タラカン」)

伊一二四、伊二三三 (十一日長浦發「作業地」)

尻矢 (十一日横須賀發「羅津」)

天龍 (十二日舞鶴發「羅津」)

長鯨、磯波、敷波、伊五九、伊六〇、伊一六  
(十三日長濱發「吳」)

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第三千五百五十三號

海軍大臣官房

昭和十五年七月十五日(月)

○令 達

官房第三六七六號

昭和十五年特別大演習部隊編成中ノ職員ヲ仰付ラレタ  
ル者ニシテ準備等ノ關係上必要アル場合ハ部隊編成前  
赴任セシムルコトヲ得

昭和十五年七月十五日

海軍大臣

官房第三六七七號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十五年七月十五日

海軍大臣

表中第六海軍軍用郵便所ノ欄所員「專任五人 判任」  
ヲ「任專七人 判任」ニ及「專任十二人 雇員」ヲ「專  
任十四人 雇員」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ  
件ナリ(昭和十二年九月一日海軍公報)

○辭 令

海軍少佐 太田 良直治

第四課勤務ヲ命ス(請海軍省軍務局)

軍令部出仕海軍少佐 古川 則義

第四部第十課勤務ヲ命ス(請軍令部)

海軍少佐 古川 則義

通信部第十課勤務ヲ命ス(請大本營海軍部)

○雜 款

○特務艦尻矢行動豫定

地名 着

横須賀 八月五日

羅ノル 八月五日

横須賀 九月十四日

發

七月十一日

八月十日

二十六日

○郵便物發送先  
特務艦尻矢宛

海軍公報(部内限)第三千五百五十三號

昭和十五年七月十五日

七八五

海軍公報(部内限) 第三千五百五十三號 昭和十五年七月十五日

七八六

八月十五日迄ニ到達見込ノモノハ

其ノ後ハ

横濱郵便局氣付  
横須賀

1247



○艦船所在 ▲印ハ「ハホ」ノ  
指定ヲ要セズ

○七月十五日午前十時

【横須賀】春日▲、嚴島、瑞穂▲、迅鯨、比叡、夕張、

赤城

山雲▲、初風、響

伊五▲

間宮、明石

(高崎)▲(翔鶴)▲(津輕)▲(伊二三)

(伊一七)▲

【長浦】

沙風、帆風、夏雲、峯雲

伊六、伊呂五七、呂五八

伊掃三、掃一、掃二、掃四、掃五、掃六

【鶴見】

(國後)▲

狹霧▲

(早潮)▲(時津風)▲(萩風)▲

【館山】

矢風、澤風

【三宅島】

沖島

【大湊】

白鷹

呂五九

大泊、宗谷

【函館】

朝風

【吳】

淺間、鬼怒▲、大鯨▲、龍驤▲、妙高▲、八雲、

初鷹、鳳翔、扶桑、橋立、香取、鹿島、

長鯨

吳竹、若竹、早苗、磯波、敷波

伊呂六三、呂六四、呂六八、伊五九、

伊六〇、伊一六

掃一六▲、掃一五▲、伊掃二三、掃一四

隱戸、襟裳、樫野

(日進)▲(伊九)▲(伊一五)▲(伊二七)▲

(夏潮)▲(浦風)▲

木曾▲、大井

伊一▲、伊二▲、伊三▲

(瑞鶴)▲(伊一〇)▲(伊一九)▲(伊二〇)▲

(伊二一)▲(伊二二)▲(伊二五)▲

【相生】

鶴見▲

伊四▲、菊月▲

【因ノ島】

文月▲

【安下庄】

千代田

【德山】

早鞆

吾妻▲、龍田▲、長良▲、名取、蒼鷹

【舞鶴】

秋風、夕風、羽風、太刀風、朝顔、芙蓉、

劉萱

【佐世保】

親潮▲(天津風)▲(嵐)▲

青葉、衣笠▲、加賀、霧島、北上

初春、伊三日、夕月、卯月、夕風、早月、

水無月、長月

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、  
 呂六二、呂六三、伊六一、伊六四、  
 掃一一、掃一二、  
 敷島▲、佐多  
 (八丈)▲、(磯風)▲、(伊一八)▲、(伊二四)▲、  
 (伊二九)▲

【鹿兒島】呂六五、呂六六、呂六七  
 呂掃一〇、掃九  
 奄美大島】足柄、八重山  
 【羅津】天龍  
 伊追風、疾風  
 伊五二

【大連】日向  
 伊朝雲

【作業地】出雲、安宅、熱海、鳥羽、勢多、堅田、  
 比良、保津、二見、伏見、隅田、鳥海、嵯峨、  
 磐手、千歳、神威、由良、多摩、常磐、  
 能登呂、勝力、駒橋、川内、長門、陸奥、  
 山城、伊勢、金剛、榛名、加古、古鷹、  
 阿武隈、劍埼、高雄、愛宕、摩耶、  
 羽黒、那智、熊野、鈴谷、三隈、最上、  
 利根、筑摩、神通、那珂、五十鈴、  
 飛龍、蒼龍  
 栗、梅、蓮、松風、朝風、若葉、初霜、

【航海中】  
 石廊 (七日吳發「タラカン」へ)  
 尻矢 (十一日横須賀發「羅府」へ)  
 球磨 (十四日大阪發「吳」へ)  
 室戸 (十四日吳發「横須賀」へ)

子日、春風、旗風、沖風、峯風、神風、  
 波風、野風、沼風、彌生、如月、望月、  
 睡月、東雲、白雲、叢雲、薄雲、  
 天霧、朝霧、夕霧、村雨、春雨、夕立、  
 五月雨、江風、涼風、海風、山風、白露、  
 夕暮、有明、時雨、綾波、浦波、大潮、  
 朝潮、荒潮、滿潮、黑潮、雪風、初雪、  
 白雪、吹雪、霰、霞、陽炎、不知火、  
 雷、電、曉、潮、曙、朧、漣  
 呂三四、呂三三、伊一一一、伊一二二、  
 伊一二四、伊一二三、伊五六、伊五八、  
 伊五七、伊五三、伊五四、伊五五、  
 伊六七、伊六六、伊六五、伊七、  
 伊六九、伊六八、伊七〇、伊七一、  
 伊七三、伊七二、伊八、伊七五、  
 伊七四  
 鷺、鳩、雉、友鶴、初雁、真鶴  
 掃七、掃一七、掃一八、掃八  
 朝日、鳴戸、野島

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第三千五百五十四號

海軍大臣官房

昭和十五年七月十六日(火)

## ○令 達

官房第三六七四號

**内令提  
要削除**

昭和十四年官房第四三八四號ハ之ヲ廢止ス

昭和十五年七月十五日

海軍大臣

(参照) 昭和十四年官房第四三八四號ハ商船學校ニ特務士官派遣ノ件ナリ(昭和十四年八月十九日海軍公報(部内限))

官房機密第四七九七號

昭和十五年七月十六日

**内令提  
要登載**

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

練習艦艇配當ノ件中改正ノ件訓令

昭和十四年官房機密第七〇六三號別表中左ノ通改正ス  
海軍砲術學校乃至横須賀海軍航空隊ノ項中「比叡(二月)」ヲ削ル

(内令提要卷三、六〇頁参照)

## ○辭 令

軍令部部員海軍少佐 石渡 貞良

第三部第五課兼同第八課勤務ヲ命ス(詰軍令部)

海軍少佐 石渡 貞良

參謀部第三部第五課勤務ヲ命ス(詰大本營海軍部)

軍令部出仕海軍機關少佐 中村 威

第三部勤務ヲ命ス(詰軍令部)

海軍機關少佐 中村 威

參謀部第三部勤務ヲ命ス(詰大本營海軍部)

## ○雜 款

○司令潜水艦一時變更

第三十三潜水隊司令ハ七月十三日司令潜水艦ヲ一時呂號第六十三潜水艦ヨリ呂號第六十八潜水艦ニ變更セリ

○郵便物發送先

海軍公報(部内限) 第三千五百五十四號

昭和十五年七月十六日

七八九

第二艦隊司令部、軍艦高雄、愛宕、摩耶、第八戰隊司令部、軍艦利根、筑摩宛

七月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 青森縣川内

八月四日迄ニ同 東舞鶴

同 八日迄ニ同 京都府與謝郡栗田

同 十二日迄ニ同 山口縣萩

同 十七日迄ニ同 福岡

九月九日迄ニ同 鹿兒島縣志布志

第五戰隊司令部、軍艦羽黑、那智宛

自七月三十日迄ニ到達見込ノモノハ

至八月四日迄ニ同 京都府與謝郡宮津

自同 十三日迄ニ同 佐世保

其ノ後ハ 第二艦隊司令部ニ同シ

第七戰隊司令部、軍艦熊野、鈴谷、三隈、最上、第二水雷戰隊司令部、軍艦神通、第八驅逐隊、第十六驅逐隊、第十八驅逐隊宛

自七月三十日迄ニ到達見込ノモノハ 福井縣敦賀

至八月四日迄ニ同 第二艦隊司令部ニ同シ

其ノ後ハ 第四水雷戰隊司令部、軍艦那珂、第六驅逐隊、第七驅逐隊宛

自七月三十日迄ニ到達見込ノモノハ

至八月四日迄ニ到達見込ノモノハ

京都府與謝郡宮津

其ノ後ハ 第二艦隊司令部ニ同シ

第三潜水戰隊司令部、軍艦五十鈴、第十一潜水隊、第十二潜水隊、第二十潜水隊、伊號第八潜水艦宛

自七月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ

至八月十二日迄ニ同 第二艦隊司令部ニ同シ

左ニ依リ假設無線電信所及文書交換所ヲ設置ス

同期間電報ニハ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

自七月二十七日迄ニ同 青森縣下北郡川内

自同 二十九日迄ニ同 京都府與謝郡栗田

自同 八月五日迄ニ同 山口縣萩

自同 八日迄ニ同 福岡

自同 十三日迄ニ同 鹿兒島縣志布志

自同 十九日迄ニ同

第二航空戰隊司令部、軍艦飛龍、蒼龍宛

七月二十四日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀

同 二十九日迄ニ同 青森縣下北郡川内

八月四日迄ニ同 東舞鶴

同 六日迄ニ同 京都府與謝郡栗田

同 九日迄ニ同 佐世保

同 十七日迄ニ同 鹿兒島縣志布志

同 三十一日迄ニ同

第十一驅逐隊、驅逐艦初雪、白雪、吹雪宛

自八月五日迄ニ到達見込ノモノハ、  
至同八月八日迄ニ到達見込ノモノハ、  
自同八月九日迄ニ同  
至同八月十二日迄ニ同  
其ノ後ハ第二航空戦隊司令部ニ同ジ  
京都市與謝郡栗田  
山口縣萩

○艦装員事務所撤去  
第十三號驅潜艇艦装員事務所ヲ昨十五日撤去セリ

海軍公報(部内限)第三千五百五十四號

昭和十五年七月十六日

七九一

1252

○艦船所在

▲印ハハハホシノ  
指定ヲ要セズ

○七月十六日午前十時

【横須賀】春日▲、嚴島、瑞穂▲、迅鯨、比叡、夕張、

赤城

初風、響

伊五▲

間宮、明石

(高崎)▲(翔鶴)▲(津輕)▲(伊二三)

(伊一七)▲

【長浦】

汐風、帆風、夏雲、峯雲、山雲

伊六、呂五七、呂五八

掃三、掃一、掃二、掃四、掃五、掃六

【鶴見】

(國後)▲

【浦賀】

狹霧▲

【館山】

(早潮)▲(時津風)▲(秋風)▲

矢風、澤風

攝津

【三宅島】

沖島

【大湊】

白鷹

【函館】

朝風

【室蘭】

宗谷

【吳】

淺間、鬼怒▲、大鯨▲、龍磯、妙高▲、八雲、

初鷹、鳳翔、扶桑▲、長鯨

吳竹、若竹、早苗、磯波、敷波

呂六三、呂六四、呂六八、伊五九、

伊六〇、伊一六

雁

掃一六▲、掃一五▲、掃一三、掃一四

隱戸、襟裳、樺野

(日進)▲(伊九)▲(伊一五)▲(伊二七)▲

(夏潮)▲(浦風)▲

木曾▲、大井

伊一▲、伊二▲、伊三▲

(瑞鶴)▲(伊一〇)▲(伊一九)▲(伊二〇)▲

(伊二一)▲(伊二二)▲(伊二五)▲

鶴見▲

伊四▲

文月▲、菊月▲

千代田

吾妻▲、龍田▲、長良▲、名取、蒼鷹

秋風、夕風、羽風、太刀風、朝顔、芙蓉、

刈萱

隼▲、鴨▲、鴻▲、鶴▲、千鳥

占守

(親潮)▲(天津風)▲(嵐)▲

青葉、衣笠、加賀、霧島、北上

初春、呂三日月、夕月、卯月、夕風、皐月、

水無月、長月

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、

呂六二、伊六二、伊六一、伊六四、

海軍公報(部内限)第三千五百五十四號

昭和十五年七月十六日

七九三

掃一、掃二、  
敷島、佐多

(八丈)▲、(磯風)▲、(伊一八)▲、(伊二四)▲、  
(伊二九)▲

【鹿兒島】呂六五、呂六六、呂六七

掃一〇、掃九

【奄美大島】足柄、八重山

【羅津】天龍

伊追風、疾風

伊五二

【パオ】知床

【作業地】出雲、安宅、熱海、鳥羽、勢多、堅田、  
比良、保津、二見、伏見、隅田、橋立、

鳥海、嵯峨、磐手、千歳、神威、由良、

多摩、常磐、能登呂、勝力、駒橋、川内、

長門、陸奥、山城、伊勢、金剛、榛名、

加古、古鷹、阿武隈、劍崎、高雄、

愛宕、摩耶、羽黒、那智、熊野、

鈴谷、三隈、最上、利根、筑摩、神通、

那珂、五十鈴、飛龍、蒼龍、

栗、梅、蓮、松風、朝風、若葉、初霜、

子日、春風、旗風、沖風、峯風、神風、

波風、野風、沼風、彌生、如月、望月、

睦月、東雲、白雲、叢雲、薄雲、

天霧、朝霧、夕霧、村雨、春雨、夕立、

五月雨、江風、涼風、海風、山風、白露、  
夕暮、有明、時雨、綾波、浦波、大潮、  
朝潮、荒潮、満潮、黒潮、雪風、初雪、  
白雪、吹雪、霰、霞、陽炎、不知火、  
雷、電、曉、潮、曙、臘、漣

呂三四、呂三三、伊一二一、伊一二二、  
伊一二四、伊一二三、伊五六、伊五八、  
伊五七、伊五三、伊五四、伊五五、  
伊六七、伊六六、伊六五、伊七一、  
伊六九、伊六八、伊七〇、伊七一、  
伊七三、伊七二、伊八、伊七五、  
伊七四

鷺、鳩、雉、友鶴、初雁、真鶴

掃七、掃一七、掃一八、掃八

朝日、鳴戸、野島

【航海中】

石廊 (七日吳發「タラカン」)

尻矢 (十一日横須賀發「羅府」)

球磨 (十四日大阪發「吳」)

室戸 (十四日吳發「横須賀」)

日向 (十五日大連發「横須賀」)

香取、鹿島 (十五日吳發「佐伯」)

呂五九、大泊 (十五日大湊發「内浦灣」)

早鞆 (十五日徳山發「佐世保」)